

1. 4年生 国語「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりよくを伝えよう」

光村図書4年「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりよくを伝えよう」の資料として、朝日小学生新聞2024年10月24日を使用。

2. 高学年 委員会活動での産経新聞社「かんたん号外くん」の使用。

広報委員会の活動で継続的に使っている。12月2日(月)に東京ガーデンシアターで、音楽会を行った。行事に向かう中で、学年の取り組みを児童が取材をした。そのことを記事にして、校内掲示板に掲示した。



3. 5年生 社会「環境を守るわたしたち」で、朝日新聞社「知る水俣病」

東京書籍 p122～123 水俣病の紹介がある。その中で、朝日新聞社の「知る水俣病」を活用予定。



4. 5年生 社会「情報産業とわたしたちの暮らし」

目標 放送などの情報産業で働く人々について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりする・・・

東京書籍の教科書では、

・テレビ局を中心に取り上げている。

情報の集め方(取材)

伝え方(肖像権、アナウンサーの工夫)

受け手の影響(情報により行動が変わったり、混乱する可能性があったりする)

などを学習する。

その後、見開き1ページで、新聞の役割について考える内容がある。

<内容>

信濃毎日新聞を扱っている。

新聞ができるまでの流れ。

地域の情報を載せている。

NIEについても載っている。

ひろげる

新聞ができるまでの流れ



1 取材をして記事を書く



2 編集会議での打ち合わせ



3 紙面づくりとチェック

新聞社の編集会議

新聞社の編集局は、報道部、文化部、デジタル編集部などの部に分かれて仕事をしています。それぞれにデスクと呼ばれる責任者がいます。各部のデスクらが集まって、どのような紙面をつくるかを決めるのが編集会議です。



4 印刷・完成



5 配達する車へ出発

地方で発行されている新聞の大きな特色は、全国の情報に加え、地域に関する情報が豊富にあることです。新聞は、世の中で起きていることを多くの人に伝えるためのメディアです。

5 日々起きている多くのできごとや情報を、早く、正確に伝えるために、新聞社には、記者やデスク、カメラマンや印刷にかかわる人など、さまざまな仕事をする人がいます。

みさきさんたちは、長野市の新聞社をたずね、

10 記者のかたに話を聞きました。

新聞社の記者さんたちに話を聞きました。

新聞社の記者のかたは、毎日、主に長野県内の現場に行き、実際に目撃したり聞いたことをもとに記事を書くそうです。書かれた記事は、編集会議やデスクの確認を経て新聞記事となり、読者へと届けられます。

読者や取材相手は県内の人々であることが多く、書いた記事の反応を直接聞くことができるため、よい反応があるとやりがいにもなるそうです。記者のかたは、今後も地域のひととともに、新聞を通して、地域のためになる報道を続けていきたいとおっしゃっていました。

新聞社の特集記事

地域の様子や課題などを伝えるために、一つのテーマを深く掘り下げて特集記事にすることがあります。2019（令和元）年10月に起きた令和元年東日本台風は、長野県内に大きな被害をもたらしました。災害被害の被害の状況に加え、その後の地域の復興・復興の様子をけいして取材し、特集記事で伝えました。

調べる

新聞社の仕事は、わたしたちの社会で、どのような役わりを果たしているのでしょうか。



長野県

新聞社の働き

新聞の役わり 新聞には、社会のできごと、外国のできごと、身近な地域で起こったこと、スポーツなど、さまざまなニュースがのっています。また、新聞社の考えを「社説」などで読者に伝えたり、一つのニュースを深く掘り下げたりします。

5 長野県長野市に本社があるこの新聞社は、1873（明治6）年に新聞を創刊しました。現在では、長野県内を中心に多くの都市に支社や支局を置き、県内で起る身近なできごとをていねいに伝えることを大切にしています。

10

新聞社の出前授業

この新聞社では、近年、教育に新聞を活用する取り組み（NIE）に積極的に取り組んでいます。新聞社で働く人が小学校や中学校に出向いて、新聞ができるまでの流れや、情報について考える授業を行っています。多いときには、1年間に、長野県内の小学校の半分にわたる約200校で授業を行っています。

また、この新聞社では、「県こども新聞コンクール」を毎年行っており、小学生が興味や疑問をもったテーマについてまとめた新聞が、数多く送られてきます。

8 新聞コンクールの入賞作品

5. 5年国語 単元「あなたは、どう考える」

ねらい

知識・技能

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、語や語句を適切に使えるようにする。

思考・判断・表現

文章全体の構成や展開が明確かどうかを意識し、他者と感想や意見を伝え合いながら、自分の文章のよい点を発見する。

授業計画

1時間目

- ・学習の見通しを持つ。

他者の意見に共感したり意見を持ったりした経験について発表する。

2時間目

- ・自分の関心のあることを題材として選び、主張を考える。

教科書の作例を読み、よい点を見つける。

教科書の投書例や「題材の例」を参考にしながら題材を集め、その中から決定する。

3時間目

- ・自分の考えを見直し、グループで意見文を見せ合う。

主張や理由、根拠について、説得力のある点や補足が必要な点を友達と意見交換する。

4時間目

- ・文章の構成を考える。

教科書の例を参考に、収集した情報を整理し、どの順番で取り上げるかを決定する。

5時間目

- ・構成を基に意見文を執筆する。

6時間目

- ・意見文を読み、感想を伝え合う。

教科書の感想例や質問例を参考にしながら、意見文のよさを引き出し、気づきを深める。

- ・学習を振り返り、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を確認する。

ポイント

1・2時間目の導入の段階で、新聞の投書を参考にするという活動があるので、例として活用した。

朝日新聞 声(2024/10/29)

産経新聞 談話室(2025/1/16)

東京新聞 発言(2024/12/20)

読売新聞 気流(2024/12/27)

セ・リーグにもDH制導入して

中学生 西村 峻汰
(神奈川県 14)

日米でプロ野球は人気だが、なぜ、NPBのセントラル・リーグはDH制度を導入しないのだろうか。

野球といえば、ピッチャーの多彩な変化球などの魅力だけではなく、バッティングが醍醐味なのではないのだろうか。また、ピッチャーにとっても、バッティングという負担を減らすことで長いイニングにわたって良いピッチングができるのではない

いのだろうか。

実際、日本のパシフィック・リーグ、MLBではDH制度が適用されている。セ・リーグにDH制度を導入すれば、ピッチャーが投球のみに集中できて、パフォーマンスを上げることができる。

なによりも、バッティングが得意な選手が打席に入る機会を増やすことにより、さらなる高得点が期待できる。そうすればもっと観客が沸くだろう。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

気流



題字・角元正燦

イラスト・熊沢厚子

大そうじ

自転車ヘルメット 必ず

看護師 渡辺美彩子 43

(さいたま市)

通勤途中、女子高生が自転車で転倒し頭から血を流してうずくまっていたところに遭遇しました。周囲の人たちと応急処置をし、彼女は救急搬送されていきました。陸橋の下り坂を下り、夜間の雨でぬれていた路面で自転車がスリップしたようです。彼女はヘルメットをかぶっていませんでした。

職場で中高生の子を持つ同僚に話すと「髪形が崩れる」「ダサい」「面倒」「みんな、かぶっていない」など親がどんなに指摘してもかぶっていないようでした。「かぶってくれたのは小学生までだった」と話す人もいました。

ノーヘルでさっそうと自転車を乗りこなす若い方を街中で多く見かけます。色々な理由があるかと思いますが、自転車に乗る時はヘルメットをかぶってください。

アナログ勉強法が自分には一番

高校生 赤石澤 一会
(岩手県 18)

Z世代なのに、デジタル教育についていけない。必死に画面を見つめても、内容が頭に入っていない。そして目と首が疲れる。

例えば、授業で先生がプロジェクターを使って教科書を投影し、書き込んで説明する。私はなぜだかチョークを使った板書よりも理解できないのだ。

スマホやパソコンのアプリ内で課

題を与えられると、全く作業がはかどらない。指でスワイプしたり拡大したり、本やプリントであれば顔を近づけてページをめくるだけで済むことなのに、指先での作業の多さに、集中が途切れてしまうのだ。

特に英語や数学などは、ペンを使って紙にコツコツ書き留める。手を動かしてこそ内容が頭に入る実感がある。この方法が私にとって理解しやすい。やはり自分には一番合った勉強法はアナログだ。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

5日 月曜日

13版

オピニオン 8

東京 埼玉 千葉 房総

中学生 大柳 瑠夏 14
(川崎市宮前区)

スーパーに行ったとき、あるボスターを見ました。障がいのある方に向けて、スーパーが行うサポートについて書かれていました。私はそのようなボスターを初めて見て、障がいのある人も暮らしやすい社会に近づいていると感じました。一方で、もう少し大きく目立つ所に張るべきだとも思いました。エレベーター内にA4サイズ

サポート伝える大切さ

で一枚だけ張られていました。ボスターがあることで障がい者の方たちも店員さんに声をかけやすくなると思うので、全員が見える所に張るの必要を感じました。最近では多様性の考え方が広まって、障がい者の方たちも生活しやすいようになっけてきています。ただ、それを伝えないと分からないこともあります。取り組むだけではなく、「伝える」ことも大切にしてほしいと思います。

「おれ」は目をアプスとくは多めで、買ったのを諦めて店を出た。帰宅後、母に話すと「おばあさ

世代

「おれ」は目をアプスとくは多めで、買ったのを諦めて店を出た。帰宅後、母に話すと「おばあさ

談話室

皆さんはセルフレジを知っていますか。セルフレジとは、お客さん自身で会計を済ませることができるレジです。私がこの前、コンビニエンスストアに行ったとき、レジには店の人がおらず、セルフレジがありました。そこで私は「セルフレジって目が見えない人はどうするんだろ」と思いました。視覚障害者でも操作ができるのだろうか、店員さんが手伝ってくれるのだろうか、などいろいろな疑問

視覚障害にセルフレジの壁

中学生 白石優衣菜 14

がわきました。近くには店員さんはおらず、レジには点字なども書かれていませんでした。私は視覚障害の方でも楽しく買い物のできたらいいな、と思いました。日本の技術を使い、すべての人がセルフレジと向き合えるようたくさんの工夫をして、形にできたらいと思いましたが、セルフレジは便利だけれど、一部の人にとっては不便なこともある、と実感しました。

(東京都町田市)